

令和4年度 園評価書

園番号

37

園名 有度北こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

| 1 教育・保育目標 | 2 重点目標 | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員会から | 改善策(来年度の具体的な取組目標等) |
|-----------|-------------------|---|--|------|-------|--|--|
| 心も体も元気な子 | 自分からやってみよう、試してみよう | 明るく元気な子の育成 室内外で元気に遊び諸感覚を使った遊びを十分行っていますか | 砂・水・泥・木の実・落ち葉などの自然物に触れたり、集めたりしながらの遊びや、戸板・ロープ・コンテナ・パレット・組み木などの可動遊具を使った遊びなど、戸外で十分に体を動かして遊んだ。室内では障材を使って製作遊びをしたり、発達に合わせた手作り玩具などを準備し、諸感覚を使った遊びを製作した | A | A | ・有度北こども園の子ども達とはとても素直で、来園する度に声をかけてくれたり、話しかけてくると明るく元気に育っている ・子どもの主体的な活動や子ども同士の関わりが深まっていることが嬉々として遊ぶ姿や、園内の掲示物・作品などから感じ取れる ・保育教諭の姿を見て真似してやってみようとする姿があり、子ども達が自主的に行動できるようになってきている | ・毎月のリーダー会議、クラス会議の中で、子どもの興味や発達を捉えながら具体的な遊びについて話し合ったり、また子どもにも経験させたいことを長期的な遊びの見通しとして考え、子ども達が自ら遊びを継続して行けるよう見通ししていく ・引き続き、保育教諭が遊びの共同作者となり、子どもの楽しい、やってみよう、なぜだろうなどの思いを見取る力をつけられるよう、会議や園内研修を行っていく |
| | | 夢中になって遊ぶ子の育成 自分の好きなことを試したり考えたりしながら遊ぶ環境を整えていますか | 子どもの発する仕草やつぶやきから、どんなことに面白さを感じているか興味や関心を探り、職員間で話し合い、素材や遊具などの環境を整えていくようにした。遊びの継続の中から考えたり試したりできるように保育教諭が遊びの共同作者になるようにしたが、まだ子供たちの試してみようとする思いが薄いように感じる | B | B | ・世の中のニュースの中で不適切な保育が取り上げられ、なぜそのようなことが起きてしまうのかと心を痛めている。有度北こども園では子どもがのびのびと遊び、先生方が子どもと真剣に向き合っていることを感じ、幸せなことだと思う。家庭でも子どもを最優先にしなければならぬと改めて感じている | ・保育教諭が待ったり、見守ったりする姿勢を大切にしながら、子どもの気づきを職員間で共有し、考えたり試したりできる環境を準備していく |
| | | 人や物と楽しんで関わる子の育成 身近な人や物と触れ合い「なぜだろう」「どうなるのかな」と感じられる体験をたくさんしていますか | まず保育教諭が子どもの思いを聞いたり、受け止めたりすることを大切にし、不思議に感じたことに共感したり、一緒に考えたりした。子ども同士で思いを伝え合う中でうまく伝わらない場面では、保育教諭が仲立ちとなって代弁したり、振り返りの機会や友達同士で伝え合える場を設けるようにしたが、引き続き丁寧なかわりをする中で自分で考えたり、試したりする力を育てたい | A | A | | |

II 各領域に関わること

| 大項目 | 中項目 | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員会から | 改善策(来年度の具体的な取組目標等) |
|------------------|----------------------------|--|--|------|-------|--|---|
| 1 こども園における教育及び保育 | (1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育 | 学年目標を意識して教育保育が進められていますか | 学年目標を基に期や週の指導案を立て、子どもの姿や経験させたいことと照らし合わせたり、幼児期までに育てたい10の姿を年齢ごとで意識しながら、教育保育を行った | A | A | ・子ども達の姿や、園説明を聞いて、先生方はもっと自信を持っていいと思う | ・自分のクラスだけでなく、他学年の保育も常に把握し、つながりや見通しを持った保育を行ったり、会議や園内研修での環境や援助について意識したりしていく |
| | (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮 | 落ち着いた生活リズムの中で一人一人が安心して園生活を送れるような配慮をしていますか | 乳児組は連絡帳や送迎時に家庭の様子を聞き、個々の生活リズムや発達を捉え、援助方法を共有している。幼児組もコロナ禍でクラス保育となり、送迎時に体調面や様子を開いたり、視覚支援で活動に見通しが持てるようにしていた | A | A | ・登園してきた保護者や子どもへの対応をそばで見たが、担任でなくても近くにいる職員がすぐに声を掛けられる姿があり、オール有度北で子ども達を受け入れているという安心感を感じる | ・子どもも一人一人に合わせた生活リズムや体調、家庭環境を園全体で共通理解し、個別で丁寧にかかわったり、安心できる環境作りをしていく |
| | (3)環境を通して行う教育及び保育 | 子どもたちの発想を豊かにしたり、挑戦できる環境作りを意識して行っていますか | 子ども達が今、どんなことに興味を持っているか、不思議さを感じているかを探り、保育者が子どもにも育ってほしい願いと共に、クラス会議やリーダー会議で提案し、遊びの環境を整えていった。素材や用具など変化させたり、本物との出会いや異年齢児の姿を知らせることでやってみようとしたり、継続する姿が増えているが、もっと新しいことに挑戦する姿を育てたい | B | B | | ・子どもの興味や思いを見取るだけでなく、子どもにも経験させたいことや育ってほしい願いを持って環境作りを継続していく。また振り返りの中から、明日につながる環境の残し方、片付け、遊びの終わり方を職員間で意識し、共有していく |
| 2 安全管理・指導 | (1)事故防止・防災 | 災害時に取るべき行動がとれるように様々な状況を踏まえた訓練をしていますか | 毎月様々な想定で訓練を行い、子ども達は年齢に合わせた行動や避難の仕方が身につけてきている。職員間で課題を出して話し合いを行い、次の訓練に活かしたり、子どもの怪我が増えてきた時には、安全マニュアルの読み合わせを行い、保育教諭の位置や環境の見直しを行ったりして事故防止に努めていった。職員一人一人が主体的に行動できるための訓練を引き続き行いたい | B | A | ・大人に余裕がなかったり、やりたいことができなかつたりすると、子どもに対して「ちょっと待って」と言いたくなくても、そんな中で先生方が子どもに向き合っていることとする姿勢がよく見られている | ・反省や課題を次の訓練に活かせるよう職員間で共有し、繰り返し訓練を行うことで課題を減らしていく。今年度は停電や断水など想定外のことが実際に起きたので、訓練方法を見直し、来年度の計画に取り入れていく予定。遊び出しの準備と共に、安全に遊べる環境であるか点検を行うようにする |
| | (1)健康教育の充実 | 健康な生活に必要な習慣を子どもや家庭にも日々の生活の中で丁寧に伝えていますか | コロナ禍の生活の中で、年齢・発達に合わせた手洗い、うがいの大切さや感染予防について掲示物や絵本を用いて知らせたり、保育教諭も一緒にいるながら丁寧に聞くことで身につけてきている。感染症状況を毎日、玄関に掲示したり、食育について掲示板や食育だよりを通して発信し家庭に伝えているが、園任せになっているところも見受けられるので、働きかけを続けたい | A | A | | ・年齢・発達に合わせた生活習慣を職員間で共通認識し、必要な援助をしたり、園での活動をボードや写真で掲示したり、クイズ形式にするなど興味を持てるような家庭への啓蒙を行っていくようにする。また、保護者に発達の見通しを持てるように、発達過程をわかりやすくおたよりや面談を通して伝え、共有するようにしていく |
| 3 保健管理・指導 | (1)支援体制づくりの推進 | 一人一人に合った支援計画を立案し、その子らしさを大切にしながら園生活を楽しめるようにしていますか | 一人一人に合わせたサポートプランを作成し、年4回の保護者との面談を通して子どもの成長を伝え、課題に対して必要な手立ては何かを具体的に考えて、内容や書式の見直しを行った。ケース会議や担当者会議、自主研修から子どもの姿を共有し、学びから肯定的な声かけや支援をおこなうことを意識していった | A | A | | ・職員間で子どもの姿を共有し、支援内容についても職員全体で考え、対応できる体制作りをしていく。継続的に外部講師の研修を受け、学びを保育に生かすようにする |
| | (1)組織体制の充実 | それぞれの職員の良さを活かし互いの思いに共感しながら連携をして保育を進めていますか | コロナ禍のため、会議や研修を昼間の時間に行うことが増え、参加出来なかった職員への報告、伝達に時間がかかってしまうことがあった。担当者が時間を決めて報告したり、事前に資料を配布したり、少人数グループで話したりと会議の持ち方を工夫したことで、誰もが意見を出しやすくなり、職員間で連携を図って保育を進めることができた。分掌ごとに責任を持って計画、実行、反省を行い、課題次に活かしていった | B | B | ・先生方が子どもの興味、関心を受け止め、子どもが自発的・意欲的に関われるようなテーマや環境作りの工夫が各クラスで見られる | ・立場の異なる職員同士の良い所、得意なところを活かせる担当分掌や役割分担を考えていく |
| 4 特別支援教育・保育 | (1)研修体制の充実 | 「やってみよう」と思える環境と援助をテーマに遊び環境を整え、自分の保育を見直したり学びに活用したりしていますか | 研修の手立てである『子どもが楽しからやってみよう』『面白かったから明日も続けたい』と心を動かした場面やきっかけを見取り、なぜそう感じたのかを探ることで環境を整えたり、保育教諭のかわりについて考えたりしながら研修を進めていった。その遊びだけで終わるのではなく、次はこうしたいという思いにつながるための研修を続けたい | B | B | | ・子どもの心が動いた瞬間や遊びの場面を見取ることは意識することができたが、どうしたらそうなるのか、次につなげるためには何が必要かを深く考えるまでに至っていないところがあったので、来年度の研修に活かせるようにしていく |
| | (1)教育・保育環境の充実 | 子どもがやってみようと思える環境を整えたり、必要に応じて変化させたりしていますか | 子どもの発達や興味を示した姿や、日々の遊びの振り返りから環境設定をどうするかを話し合い、必要な環境を準備したり、素材や用具を変化させ、保育を進めていったが、今を見極め対応することができない時もあった。クラスだよりで対応しようせず、園全体に投げかけることで職員間でアイデアを出し合えるようになっていった | B | A | ・園だよりを読ませてもらい、子ども達の何気ないやり取りの姿が温かくなった。小さなことでも見逃さない保育教諭の姿勢が感じられる | ・子どもの姿や思いが出てから準備することもあったので、子どもがこんな風に育ってほしいという願いを持ったり、遊びの広がりや予測したりすることを意識していく。環境設定で良いアイデアを伝え合えるように、教材研究の時間を設けていくことを再確認した |
| 5 組織運営 | (1)近隣の園との連携の推進 | 面談や参観会を行い子どもについて語り理解しあうことで、保護者と保育教諭がつながり合っている子育てができていますか | コロナ禍でクラス保育での対応が増えたため、早速番保育の保護者と顔を合わせて様子を伝える機会が多くなり、よりつながりを持つようになった。園行事参加人数の制限が続いているが、年2回の保育参加会、運動会に実際に子どもを連れてもらうことで、成長した姿を喜び合ったり、保護者面談を通して家庭での様子や子育ての悩みを共有し合ったりして子育て支援につながった | B | A | ・家庭や近隣校、地域との連携は相手がいることで、コロナ禍の中、園側でできる範囲でやるべきことがやられている。小学校へのアプローチを続けることとつながりを持つようになり、地域とのつながりも昨年度より広がっている | ・引き続き、挨拶プラス一言で相談しやすい関係作りを心がけ、面談や参加会以外でも必要に応じて育ちの共有や支援ができるようにしたり、全クラスでの玄関掲示、写真掲示やドキュメンテーションなど分かりやすい掲示の仕方工夫、家庭と園がやり取りできるようなおたより作りを考えたりにしていく |
| | (1)近隣の園との連携の推進 | 公開保育・公開授業での交流を図り、有度北こども園の教育保育を理解してもらっていますか | 近隣園の公開保育に行ったり、自園の公開保育に来てもらうことで、園の教育保育を理解してもらい、いただいた意見や感想を学びにつなげることができた。有度第二小学校とは公開授業、公開保育の行き来ができ、入学に向けた貴重な意見をいただくことができた。有度第一小学校とは公開授業に参加したり、散歩時にトイレを借りるなど、こちらからの働きかけは続け、少しずつだが前進している現状だが、より積極的なアプローチを続けて | A | A | | ・コロナ禍で制限はあるが、今後も小学校に散歩に出掛け、施設を使わせてもらう予定があり、できる限りの交流を続けていく。公開保育、公開授業参加後には、職員会議で写真など使って報告をして情報共有を図るようにはする |
| 6 研修 | (1)研修体制の充実 | 地域の行事への積極的な参加、また保育参加への推進を図ることで地域とつながり、子どもの体験を豊かにしていますか | 森と林を守る会のためのこ掘りの参加から七夕の笹をいただいたり、毎月一回のお話ほけつとの会を子ども達も楽しみにしたり、お世話になっている園医などへの勤労感謝訪問、地域の方に指導していただく花育教室、おしゃべりサロンの開催など、地域の方と関わりを持ちながら様々な体験ができた。散歩時には挨拶を交わしたり、声を掛けていただくことも多かった | B | A | | ・地域とのつながりを深めるために、得意なことを子ども達に教えてもらおう、季節の花が植えられている場所を知るなど、子どもの体験を豊かにできるようなアイデアを出し合い実践を重ねていく。園での活動を地域の方に知ってもらえるよう、正門掲示板に行事のの様子や写真掲示をしていくようにする |
| | (1)信頼される園づくりの推進 | | | | | | |